

第60期 第2四半期決算のご報告

2017年4月1日から2017年9月30日まで

株主通信

CONTENTS

- 1 株主の皆様へ
- 2 トピックス
- 3 セグメント別業績
- 5 連結決算ハイライト
- 7 四半期連結財務諸表
- 9 会社の概要



株式会社 丸順

証券コード：3422

株主の皆様へ

ご挨拶



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当社第60期第2四半期（2017年4月1日から2017年9月30日まで）を終了いたしましたので、営業概況及び第2四半期決算のご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年11月

代表取締役社長 齊藤 浩

連結業績の概況

北米事業撤退により減収となったものの、
全利益段階で黒字化を達成

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では設備投資が緩やかに増加し、個人消費も回復傾向であること等から景気は着実に回復が続いております。欧州では個人消費が増加しており、輸出において持ち直しの動きがみられ景気は緩やかに回復しております。アジアでは中国において個人消費が堅調に増加し、輸出が拡大する等景気は持ち直しの動きが続くものと見込まれており、日本では個人消費及び設備投資が高い伸びを示すほか、輸出の持ち直しによって、緩やかな回復が続いております。

当社グループが属する自動車業界においては、タイでは輸出台数が減少しているものの、一方で国内販売台数は好調を維持しております。中国では乗用車の生産及び販売の伸び率が鈍化したものの、商用車は引き続き好調を維持しております。日本では新車販売台数が堅調に推移しているものの、今後において買い替え需要の減少が見込まれており、先行き不透明な状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、持続的な企業成長に向けた「丸順構造改革プラン」推進の最終年度として総仕上げを行っているほか、中長期的な成長に向けた取組みも順調に推進しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は23,123百万円（前年同四半期比20.5%減）、営業利益は1,687百万円（前年同四半期比128.0%増）、経常利益は961百万円（前年同四半期は94百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は276百万円（前年同四半期は13百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、早期に経営状況の健全化を目指すという観点から、誠に遺憾ながら年間配当は無配とさせていただきます。事業構造改革をさらに加速し、早期に復配できるように努めてまいりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

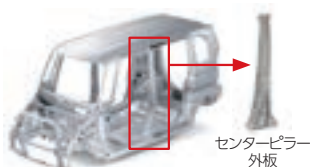
トピックス

Topics
1

世界初！冷間プレス加工で超高張力鋼板の外板部品を量産化

当社は、世界で初めて冷間プレス加工で1180MPaの超高張力鋼板でのセンターピラー外板部品の量産化に成功し、2017年9月1日発売の本田技研工業株式会社の新型「N-BOX」に採用されました。当社は、成形難易度は高いものの、生産性及びコスト面等から冷間プレス加工の優位性を見出し、本田技研工業株式会社、株式会社本田技術研究所及び新日鐵住金株式会社との共同取り組みを実施いたしました。また、当該部品の加工については、65年間培われてきた金型ノウハウをベースに、成形シミュレーションを活用すると共に、シワの発生防止のため材料を拘束して加工するロックバンド技術やプレス機負荷を考慮し段階的に加工する浅絞り工法等のオリジナル加工技術を開発し、成形難易度の高い冷間プレス加工に対応しております。

今後も超高張力鋼板の冷間プレス加工を追求し、業界でオンリーワンの地位確立を目指します。



本田技研工業株式会社「N-BOX」

Topics
2

バッテリー事業の生産効率化の取り組み

当社は、自動車用バッテリーケース関連部品の生産を埼玉県と岐阜県にある2工場から養老工場（岐阜県大垣市）に集約しております。養老工場は高品質なミッション部品等を生産する精密部品専用の工場でありましたが、今後さらにバッテリーケースの需要増加が見込まれるため、生産効率向上の観点から同工場へ集約いたしました。既存設備の活用による投資額の抑制及びレイアウトの工夫等により要員及び工数も削減しております。

自動車電動化については中国を中心に世界各国で規制や方針が発表され、急速に電動化関連部品市場が拡大するものと考えており、当社としてもバッテリー事業は今後成長が見込まれる重要な事業と位置付けております。グループ全体での展開も視野に入れ、中国拠点でもバッテリー関連部品の生産を開始しておりますが、マザー工場である日本でバッテリー事業を確立させ、国内外での販路拡大を図ってまいります。



養老工場（バッテリー部品溶接ライン）

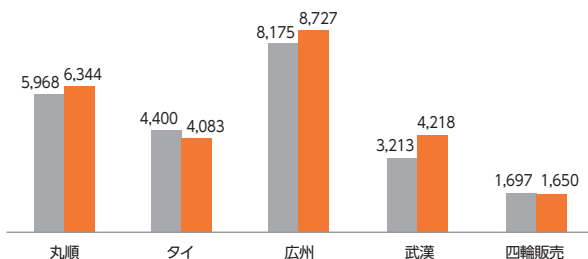
セグメント別業績

セグメント別売上高 (第2四半期)

(単位: 百万円)

■ 2017年3月期

■ 2018年3月期



丸順

〔株式会社丸順〕

増収増益

丸順においては、部品事業における主要客先の大幅な増産影響により、売上高は増加いたしました。また、「丸順構造改革プラン」の着実な推進の結果、特に部品事業の収益が大幅に改善されたことにより、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は6,344百万円（前年同四半期比6.3%増）、経常利益は510百万円（前年同四半期比214.6%増）となりました。

タイ

〔タイ・マルジュン社〕

減収減益

タイにおいては、部品事業における売上が堅調に推移したことに加え、経費削減等の製造原価低減の取組みにより、損失は減少したものの、エンジニアリング事業における専用設備の販売が大幅に減少したことにより、全体としては売上高、利益共に減少いたしました。

以上の結果、売上高は4,083百万円（前年同四半期比7.2%減）、経常損失は208百万円（前年同四半期は156百万円の経常損失）となりました。

広州

〔広州丸順汽车配件有限公司〕

増収増益

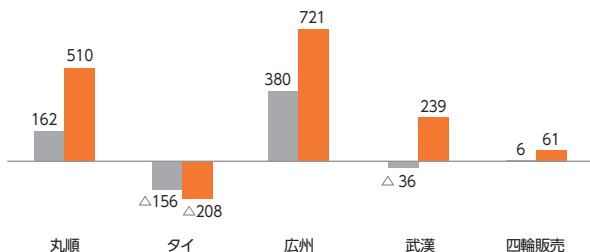
広州においては、エンジニアリング事業における専用設備の販売等が減少したものの、部品事業における主要客先の増産影響に加え、外注加工の社内取り込み等による製造原価低減の取組みにより、売上高、利益共に増加いたしました。

以上の結果、売上高は8,727百万円（前年同四半期比6.8%増）、経常利益は721百万円（前年同四半期比89.5%増）となりました。

セグメント別経常損益 (第2四半期)

(単位：百万円)

■ 2017年3月期 ■ 2018年3月期



武漢

【武漢丸順汽車配件有限公司】

増収増益

武漢においては、主要客先の大幅な増産影響を受けたことに加え、購入費を中心とした取組み等により製造原価の増加を抑制し、売上高、利益共に増加いたしました。

以上の結果、売上高は4,218百万円（前年同四半期比31.3%増）、経常利益は239百万円（前年同四半期は36百万円の経常損失）となりました。

四輪販売

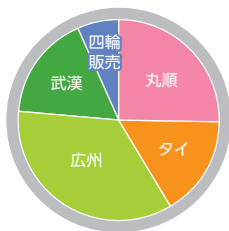
【株式会社ホンダ四輪販売丸順】

減収増益

四輪販売においては、中古車販売台数が減少したものの、新車販売台数の増加により売上高はほぼ横ばいとなりました。また、新車販売台数の増加影響及びサービス提案等の粗利向上の取組み等により、利益は増加いたしました。

以上の結果、売上高は1,650百万円（前年同四半期比2.8%減）、経常利益は61百万円（前年同四半期比883.3%増）となりました。

〈セグメント別売上高構成比率〉

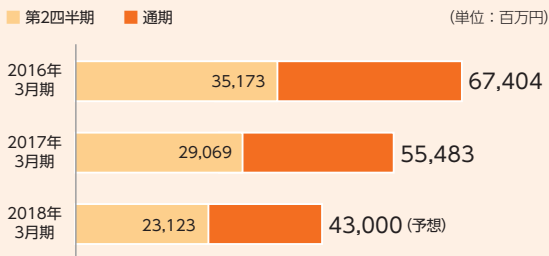


丸順	25.3%
タイ	16.3%
広州	34.9%
武漢	16.9%
四輪販売	6.6%

連結決算ハイライト

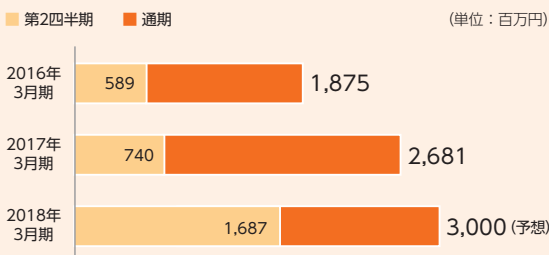
売上高

23,123百万円 • 前年同四半期比 ↓



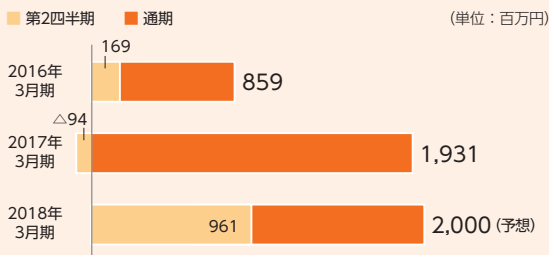
営業利益

1,687百万円 • 前年同四半期比 ↑



経常利益

961百万円 • 前年同四半期比 ↑

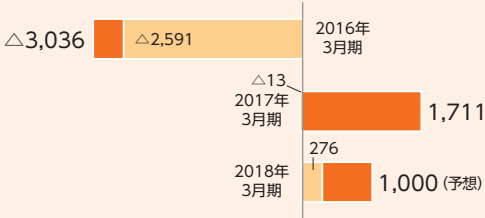


親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

276百万円 • 前年同四半期比 **↑**

■ 第2四半期 ■ 通期

(単位：百万円)

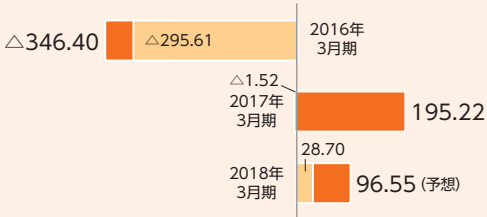


1株当たり親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

28.70円 • 前年同四半期比 **↑**

■ 第2四半期 ■ 通期

(単位：円)

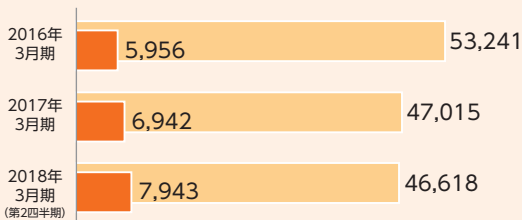


総資産・純資産

46,618百万円 • **7,943**百万円

■ 総資産 ■ 純資産

(単位：百万円)

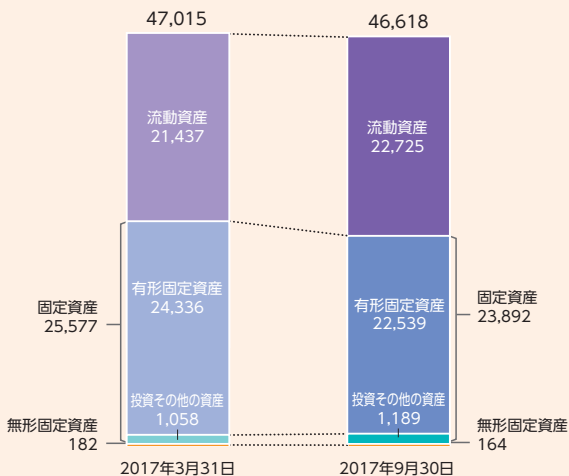


四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (要旨)

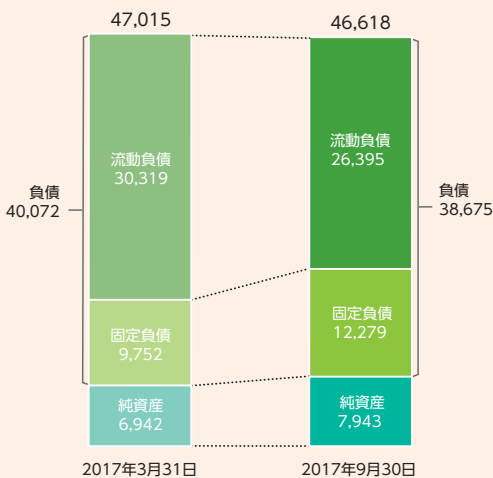
資産の部

(単位：百万円)



負債・純資産の部

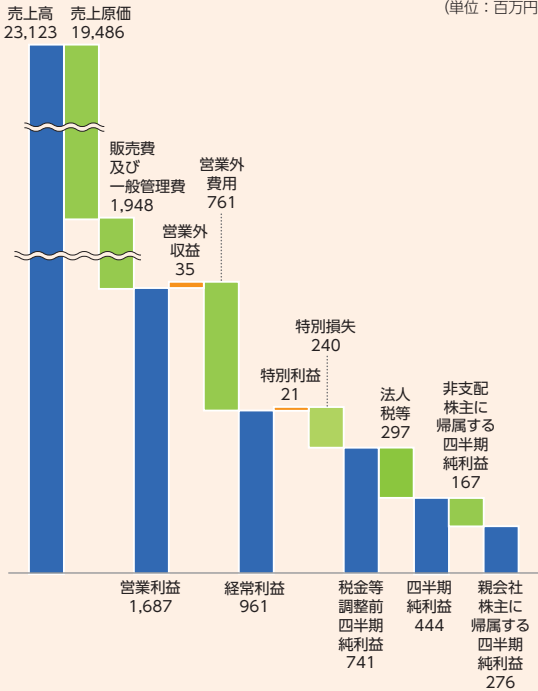
(単位：百万円)



四半期連結損益計算書 (要旨)

2017年4月1日～2017年9月30日

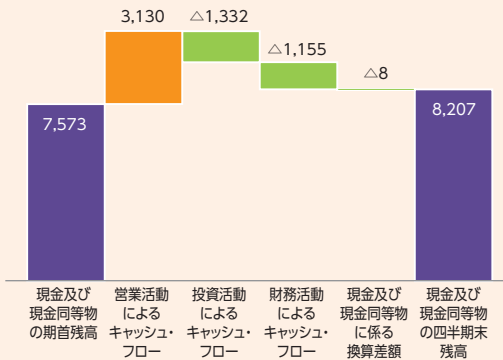
(単位：百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

2017年4月1日～2017年9月30日

(単位：百万円)



会社の概要 (2017年9月30日現在)

会社概況

商号

株式会社 丸順
(英文社名: MARUJUN CO., LTD.)

創業

昭和27年7月
(創業者: 今川 順夫)

設立

昭和35年1月

資本金

1,198百万円

事業内容

自動車用車体プレス部品の製造
自動車用精密プレス部品の製造
各種金型の設計・製作
治具・検査具の設計・製作
自動車の販売・サービス

従業員数

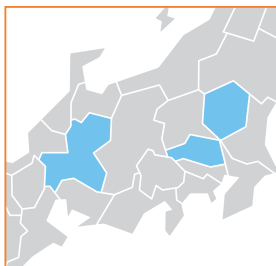
314名 (連結2,486名)

役員

代表取締役社長	齊藤 浩
常務取締役	青山 秀美
取締役	猪熊 篤俊
取締役	松井 恒夫
取締役	棚橋 哲郎
取締役	湯川 好春
取締役	上田 勝弘
常勤監査役	馬淵 仁
監査役	水谷 博之
監査役	堀田 政道
執行役員	山本 哲也
執行役員	林 和英
執行役員	山崎 英次
執行役員	森 和行

(注) 1.取締役 上田勝弘氏は、社外取締役であります。
2.常勤監査役 馬淵仁氏、監査役 水谷博之氏は、社外監査役であります。

事業拠点



本社・上石津工場

岐阜県大垣市上石津町乙坂130-1

浅西工場

岐阜県大垣市浅西3-22-22

養老工場

岐阜県大垣市上石津町牧田2947-1

埼玉工場

埼玉県鶴ヶ島市三ツ木新町2-5-23

栃木開発センター

栃木県宇都宮市ゆいの杜1-5-40
とちぎ産業交流センタービル202号室

(株)ホンダ四輪販売丸順 (子会社)

岐阜県大垣市新田町2-1234

広州丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国広東省広州市
広州経済技術開発区永和経済区
永盛路8号

武漢丸順汽车配件有限公司(子会社)

中華人民共和国湖北省武漢市
東湖新技術開発区光谷一路223号

タイ・マルジュン社(子会社)

NONG KHAE INDUSTRY ESTATE BAN
NONGSAMAK 62 MOO-6, KOKYAE, NONG
KHAE, SARABURI 18230, THAILAND

ベストテックス・MM・インディア社(出資会社)

SPL-2B, TAPUKARA INDUSTRIAL AREA, KHUSHKHERA,
DISTT. ALWAR, RAJASTHAN-301707, INDIA

株式の状況

株式数及び株主数

発行可能株式総数

39,000,000株

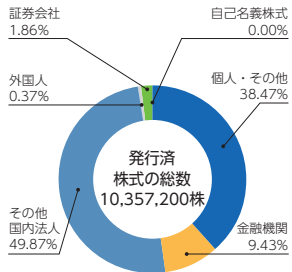
発行済株式の総数

10,357,200株
(自己株式128株含む)

株主数

778名

株式数構成比

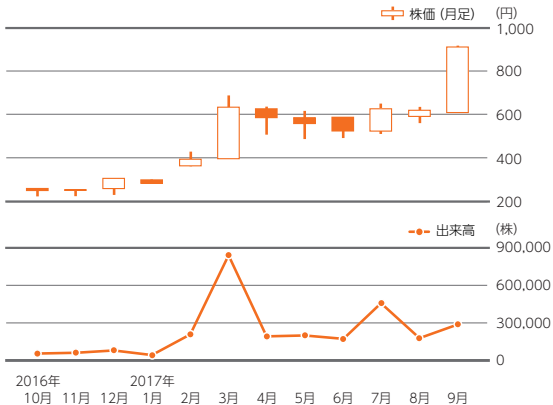


大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
東プレ株式会社	2,070,700	19.99
今川喜章	1,026,670	9.91
本田技研工業株式会社	988,950	9.55
今川順夫	479,570	4.63
太平洋工業株式会社	463,950	4.48
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.58
今村金属株式会社	336,400	3.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.14
株式会社大垣共立銀行	300,000	2.90
有限会社イマガワ	300,000	2.90

(注) 当社は、自己株式128株を保有しております。持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株価チャート



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日 期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



ホームページ

株主・投資家情報をはじめとするIR情報から技術の紹介など様々な会社情報を随時掲載しております。ぜひ、当社ホームページをご覧ください。

当社ホームページURL

<http://www.marujun.co.jp/>

丸 順

検索



株式会社 丸順



本株主通信は、環境保全のため「植物油インキ」で印刷しています。